

箱根町景観施策推進会議第17回会議 次第

日時：平成26年2月27日（木） 10：00分～ 場所：本庁舎4階 第1～3会議室

1 あいさつ

2 議題

- (1) 箱根町公共サインガイドラインの運用について
- (2) その他

箱根町景観施策推進会議第 17 回会議 資料目録

公共サインガイドラインに係る調査集計結果 … 資料 1

平成 25 年に作成した公共サイン … 資料 2

日 時	平成 26 年 2 月 27 日 (木) 10 時 00 分から 11 時 10 分まで	場 所	本庁舎 4 階 第 1 会議室
出席者	会議メンバー：6 名 オブザーバー：1 名 (田邊 学氏) 都市整備課：清水課長、勝又主任主事、大木主任主事		
議題、会議概要等			
清水課長のあいさつの後に、議題に入っていったものである。			
1 箱根町公共サインガイドラインの運用について			
<p>資料 1「公共サインガイドラインに係る調査集計結果」について、事務局より説明をした後、資料 2「平成 25 年に作成した公共サイン」について、それぞれの担当から説明がされたものである。その後、それぞれの資料に基づき、オブザーバーを交え協議したものである。</p>			
2 その他			
<p>前回会議での意見調書について事務局より説明し、オブザーバーを交え協議したものである。その他、事務連絡等を行ったものである。</p>			

箱根町景観施策推進会議 第17回会議 会議録

議題	(1) 箱根町公共サインガイドラインの運用について
協議	<p>平成23年度に策定した「箱根町公共サインガイドライン」について、事前に回答してもらったアンケートの集計結果（資料1）と実際に作成された看板の写真（資料2）等を踏まえ、平成25年に作成した公共サインについて、オブザーバーを交え協議したものである。</p>
協議	<p>◎アンケート集計結果だけでは、どのような公共サインを作成したのか分かりづらいので、資料2の写真等の成果物について、担当から説明をされた上で、出席者から意見を伺いたい。（事務局）</p> <p>→資料2の最初の5枚は観光資源説明板で、平成12～13年頃に随時設置したものです。板面が経年劣化で見えづらくなっていくので補修を行いました。躯体はかなり頑強なものですので清掃に留めています。</p> <p>その次にあります解説板につきましても、かなり昔から設置しているもので、平成11年頃に改修しておりますが野外に設置しているものですので定期的に改修が必要なため、今回景観に配慮ということで焦げ茶を地色にして白文字にするやり方で作成しております。</p> <p>神社に設置しております解説板についても基礎から劣化していたため新たに作成しなおしましたが、白地に黒文字だったものを、同じように茶地に白文字で景観に合わせる形で作成しました。</p> <p>次のページからはハイキングコースの案内板と説明板の補修を行いました。山の上に有りますのでどうしても管理が行き届かず放置してしまうことが多いのですが、最近では定期的に見回りを行いましてしっかりと案内できるよう務めています。基本的にすべて茶地に白文字で作成し、周りの景観に合わすよう心がけております。（観光課）</p> <p>→一枚目の観光資源説明板では民間の看板もすぐ横に設置してありますが設置場所は私有地なのですか。複数の看板が同時に設置してあると折角のサインが目立たないと思いますが。（事務局）</p> <p>→おそらくこれは私有地に設置させてもらっているものだと思います。このような民間に由来のあるものについては、設置当初に協力をいただいているもので、どうしてもスペース的に限界があるため写真のように一まとめになっているのではないかと思います。（観光課）</p> <p>→解説板に小さめの板面が追加されていますが、これは解説の英語表記ということでしょうか。（事務局）</p> <p>→英語表記です。ハイキングコースの案内板もそうですが、近年外国人の方の訪問が増加しているためそれに対応する形で設置したものです。アジア系の方も多く見られています。そこまで表記すると板面が雑多になってしまうので英語表記のみとしています。（観光課）</p>

→公共サインガイドラインでも基本的に日本語と英語の2ヶ国語表記と
しています。日本に来られるアジアの方は大抵英語を理解できると思うの
で2ヶ国語表記で十分と考えています。(事務局)

→この看板類の材質は何ですか。(上下水道温泉課)

→解説板と案内板は木材ですが、観光資源説明板はコンクリートに塗装し
たものです。(観光課)

→木材は数年で改修が必要になってきますが、ランニングコストはどう考
えていますか。また、松材などは水に強いといいますが、水に強い木材を
使う考えはありますか。(上下水道温泉課)

→県内の間伐材や木材を使おうという動きがあるのでそれに合わせてい
ます。また登山客等には木材のほうがいい印象を与えるようです。耐水性
のある木材については、値段の問題もありますが、県内及び町内の間伐材
がスギとヒノキなのでどうしてもそちらを選ぶことになってしまいます。
(観光課)

→定期的なメンテナンスは考えていますか。(上下水道温泉課)

→ハイキングコースの定期点検を行なっているので、その時に一緒に確認
するようにしています。(観光課)

→解説板等の支柱で地面に埋まる部分が塗装されていないようですが、防
腐処理等はしているということよろしいですか。(事務局)

→しているとは思いますが、詳しくは不明ですので確認しておきます。(観
光課)

→観光資源説明板を清掃したとのことですが、写真を見る限りそんなに綺
麗になっていないように感じます。(事務局)

→清掃はしましたが地の塗装が剥げてしまっていますのでそのような見
た目になっています。塗り直すのが良いのか多少剥げていたほうが良いの
かは検討してみます。(観光課)

→表示面の改修というのは、躯体のメンテナンスをする良いきっかけで
す。この場合は塗り直すのか否か、迷うところですが、簡単に対応するな
ら塗り直すほうが良いので、他の看板と合わせて焦げ茶に塗るといった考
えがあると思います。

また、今回は表示面の交換だけでしたが、そもそも設置場所が適切なの
かといった問題があります。事務局からの意見にもありましたが、他のも
のに埋もれてしまっているの、観光客がここまで来て見る雰囲気になっ
ているのかといったことです。前にポールや段差があり、なお柵がある状
況で近くまで行って見ることができないことなど、もちろん設置場所にも
制約があると思いますが、もっと見やすい表示ということを心がけていた
だきたい。(アドバイザー)

→アンケートでガイドラインのどの整備基準に準じて作成したのかとい
う設問で、配置に関して準じたとの回答がありませんでしたが、見やすさ

や伝わりやすさなど板面のデザインに意識が行きがちで配置に関して意識が薄いようですので、注意していただきたい。次に都市整備課の分について説明をお願いします。(事務局)

→資料2の17枚目から21枚目が都市整備課で作成したもので、17～19枚目はA3サイズでラミネート加工し公園に冬期の間設置したもので、20～21枚目はA4サイズでラミネート加工し町道上の放置車両に設置したものです。

分かりづらいですが20～21枚目はガイドラインに準じて作成したもので、目立たないのではとの危惧もありましたが、実際に多少なりとも放置車両は減少したので周知にはガイドラインが示す色彩で十分なのかと思いました。(都市整備課)

→設置場所にもよるかと思いますが、赤などの色彩を使用しなくても明度差をつけることによって効果は認められます。(事務局)

→写真が載っているものがありますが、写真を載せる分に関しては特にガイドラインに触れることはないのですか。(観光課)

→ガイドラインではなるべく絵や写真の表示は控えることになっていますが絶対ではありません。相手に伝えることが重要なので、写真を文字で伝えようとする余計に伝えづらくなってしまいます。また案内看板に写真やイラストを掲載することは禁止していません。自然公園法でも案内看板については、環境省と協議の上で使用する色彩を決めるらしいので一概に禁止というわけではありません。(事務局)

→この看板はワードで作られているようですが、一時的なものとはいえ数ヶ月間設置して多くの人目に触れるのでガイドラインに沿って作成してもらいたい。またカラー印刷をするのなら背景色にガイドラインに沿った色を薄く敷くと印象が柔らかくなります。またこの場合、文字の配置があまり良くないのでデザインはできる限りシンプルにするとスマートになります。情報量が少ないものほど細かい点に目が行くので、そのあたりのデザインにも気を配ったほうが良いです。

サインを自作する場合、作り手によってデザインがぶれないように町の基準やテンプレートを作って、色や書体、文字サイズや配置などを統一したほうが良いと思います。文字飾りは見やすさにはあまり関係なく、配色を考えたほうが見やすくなります。民間では文字飾りを多用しているものも多いですが、それは見やすさというわけではなくデザイン上の話なので公共サインでは使わないほうが良いです。公共サインで重要なのは同じデザインにしてこのデザインが使われているものが町のものだと伝わり、デザインそのものがサインとなることが重要です。(アドバイザー)

→公共サインの事例集やテンプレートのようなものを作っておいたらどうですか。(上下水道温泉課)

→色彩については色見本表を作って各課に配布しています。テンプレートのほうは都市整備課のライブラリにアップロードして周知していますが、あまり利用されていない状況のようです。(事務局)

→民間企業では自社のブランドロゴを使う際、人によってデザインがまちまちだとイメージを損ねてしまうのでテンプレートが作ってあり、使用する状況に合わせて文言を変えるだけになっているのでデザインがぶれることはありません。町もテンプレートの中に町のロゴを入れるなど、ちょっとしたことで町が掲出しているサインであることが分かるようになります。(アドバイザー)

→公共サインガイドラインを作る際に、町章を使用する承認は取ってありますので是非活用してください。

次に、生涯学習課が作成した解説板ですが、仙石原湿原に設置してある解説看板です。アンケートでは板面のみの交換のため躯体の材質や配置について配慮できなかったとありますが、材質は自然木で色彩も景観に合ったものであると感じています。(事務局)

→木材の場合、塗装の剥がれも一つの味わいととれますが、鉄のサビ等はそのように感じることはできません。この看板の場合、後ろの柵も木材を使用しておりで自然の中にあるサインとしては非常に素晴らしいと思います。(アドバイザー)

→材質について非常に良いと意見を出しましたが、公共サインであることを考えたときに高さも重要となります。この場合高すぎて眺望の妨げになっています。この場所ではサインの上から視線が抜けるようにすると良いです。サインの製作者はできる限り良いものを作ろうとし、大きくなりがちですが、サインはその場所を引き立てる脇役に回るように高さをデザインすると良いです。(アドバイザー)

→高さは観光課の観光資源解説板ぐらいが良いのですか。(事務局)

→観光資源解説板は親切な高さになっています。(アドバイザー)

→美術館や博物館などにも解説文はありますが、読もうという気持ちになるものとならないものがあります。読みやすく“読もう”という気持ちになる文言や解説というのはあるものなのですか。(上下水道温泉課)

→表示面に対する文字量の問題だと思います。大きい文字のほうが読みやすいということではなく、文字の大きさと行間の適切な比率というものがあるのでそれを守ると読みやすくなります。その適切な比率に収まるよう文言をデザインするには、文言の中で一番長くなる部分を探し、その部分が適切な比率になるように調整すると良いです。(アドバイザー)

◎デザインを統一し繰り返すことで箱根町が掲出しているサインだと分かるかとありましたが、ガイドラインがまだ役場内に浸透しておらず、サイン作成のたびにその都度アタフタしています。何かテンプレートに文字を

	<p>埋めるだけで出来上がるような上手いやり方はありませんか。(観光課) →パワーポイントのような、文字を当てはめれば出来上がるようなデザインデータがあるとよいですね。(アドバイザー)</p>
<p>議題</p>	<p>(2) その他</p>
<p>協議</p>	<p>◎前回の会議に対する意見調書が税務課から出ているので紹介します。内容としましては、「外観も重要な事項だがその根元となる庁舎内が余りにも雑多になっている。来庁する住民にキレイな箱根町という印象が芽生えれば大きな成果が出ると考えるので、まずは庁舎内の整理整頓を心がけるべき」、とのことですが何か意見はございますか。(事務局)</p> <p>→公共サインとは少し外れていますが、もっともなことだと思います。節電ということで照明を落としています、階段などやたら暗い場所があり夕方など危ないと思う場面もあります。また、応接コーナーが倉庫のようになっている場合もあるので、来庁者などと打合せをする際にキレイな印象を与えられるほうがいいのではないのでしょうか。(上下水道温泉課)</p> <p>◎人に対する気持ちがまず大切で、良い印象を与えるというのが重要だと思います。(企画課)</p> <p>◎景観条例で大規模な建築物や工作物の改修などでは、事前に届け出て色彩等の協議が必要となっていますが、なかなか民間に浸透していない部分があります。皆さんが庁舎外に出たとき足場等を組んでいるのを発見したら都市整備課まで一報願います。(事務局)</p> <p>◎今日の会議テーマは公共サインについてでしたが、サインは記号という意味も持ち広い意味で考えると、雰囲気もサインであるので、どのような雰囲気を作っていきたいかということが、結果的には一つ一つのことに反映されていくと思いますので、想像力を働かせてよりよい環境、よりよい記号を皆様に与えられるようになっていく良いと思います。(アドバイザー)</p>